

# サクサク

～2009年春、満開のサクラのもとで卒業しよう～

第42号  
2009. 01. 30

## 社会科 「死刑制度を考える」 3

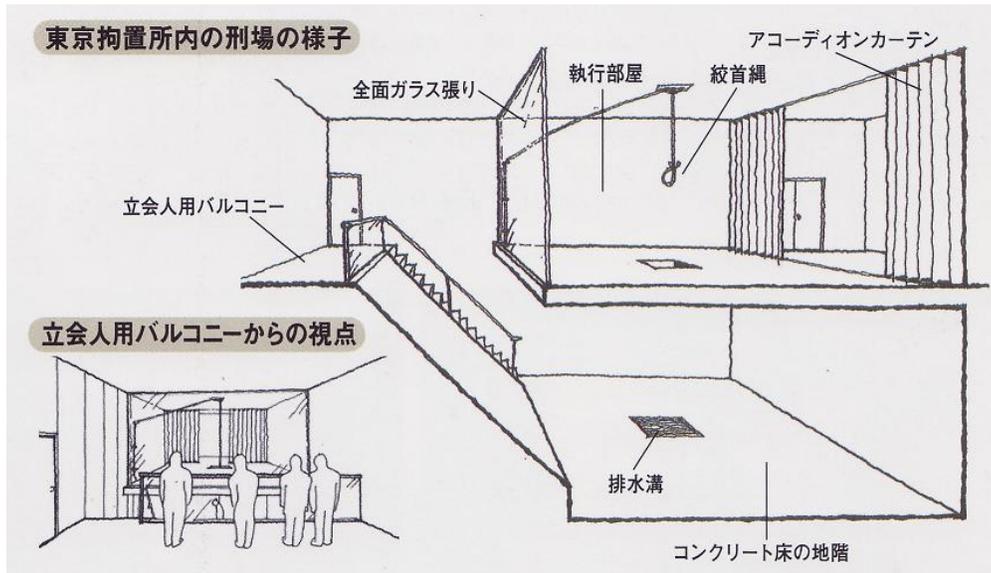
終身刑の創設を目指している「死刑廃止を推進する議員連盟」で会長を務めているのが亀井静香さん（国民新党）です。警察庁に入庁し、警察官僚として活躍された経験のある彼は、「冤罪の危険性」などを指摘しながら「死刑制度」の廃止を訴えています。実は前任校で同様の実践をおこない、生徒たちが考えをまとめた『サクサク』を送付したところ、昨年彼から職員室に直接電話をいただきました。「生徒たちがよく考えている」ということに加え、当時開会中の通常国会において「終身刑創設のための法案提出を目指している」ことなどを受話器の向こうで語ってくださいました。終身刑そのものについてもさまざまな議論がありますが、生徒たちが考えていることが現実の社会と結びついていることを実感した一時でした。



亀井静香さん  
山陰中央新報  
(2008. 4. 23)

授業の中ではこの議員連盟で事務局長を務めている保坂展人さん（社会民主党）のイラストをもとに死刑執行の様子を紹介しました。「死刑制度」については刑場を含め、情報があまり公開されていないのが現状です。彼のイラストをもとに、絞首刑がおこなわれる執行の様子や執行に携わる刑務官の姿についてもふれました。

さて、今春私たち市民が刑事裁判の第一審に参加する「裁判員制度」がスタートします。扱うのは凶悪犯罪などの重大事件となっていますので、「裁判員」を務めるということは、「死刑制度」を判断するということだと私は考えています。様々な視点から検討を加え、司法に対しても主体的に関わっていくような主権者としての姿が、犯罪のないよりよい社会をつくりあげていく上で有効に作用するのかもしれませんが。



『DAYS JAPAN (2007年12月号)』より